

医学教育分野別評価 長崎大学医学部医学科 年次報告書

2021 年度

医学教育分野別評価の受審 2017（平成 29）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.11

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33

はじめに

本学医学部医学科は、2017 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2018 年 9 月 1 日より 7 年間の認証期間が開始した。

受審時には基本的水準 12 項目、質的向上のための水準 10 項目が部分的適合となった。2019 年度には行動科学の体系化や、専門教育科目での水平統合の推進、臨床実習評価などの改善点を報告した。2020 年度には新しいディプロマ・ポリシーの策定に向け、新案を作成した。プログラム管理について教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置し、委員に学生と医学科以外の教育関係者を加えた。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33 を踏まえ、2021 年度の年次報告書を提出する。

なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2020 年度 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂があった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域 1.3 基本的水準（又は、及び、質的向上のための水準）における「改善のための示唆」を受け、現行のディプロマ・ポリシーが適切であるか、また変更が必要ないかを検討した。外部の専門家を交え検討した結果、当学科を希望する学生に対して簡潔でわかりやすいものへの変更が必要との結論に至り、新たなディプロマ・ポリシーの策定に向けて新案を作成した。

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ディプロマ・ポリシーの領域別に下位項目として具体的な卒業時学修成果が明示されている。

改善のための助言

- 学生が学修成果を着実に修得できるように教育し、成果を検証すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 現行のディプロマ・ポリシーが適切であるか、また変更が必要ないかを外部の専門家を交え検討した結果、当学科を希望する高校生などが理解しやすいものに変更し、長崎大学医学部の歴史に関する理解を深めることを目的とするような項目を追加すべきであるとの結論に至った。現在の当学科のディプロマ・ポリシーの大項目は以下のとおりである。

<現ディプロマポリシー>

- ① 倫理観とプロフェッショナリズム
- ② 医学医療に関連する知識
- ③ 医療の実践
- ④ コミュニケーション技能
- ⑤ 地域医療・社会医学・国際性
- ⑥ 科学的研究

他大学医学部のディプロマ・ポリシーも参考に、内容の変更や追加の必要性を外部の専門家も交えて領域1WGで協議した。その結果、見る者がより理解しやすく簡潔な内容への変更が望ましいとの結論に至り、現行のディプロマ・ポリシーで重複する項目を一部集約化した。さらに、グローバル化の中、自身の出身大学のバックグラウンドを理解することは国際性のみならず地域医療の観点からも重要との提案があり、長崎の医学の歴史習得に関する項目も盛り込んだ。その結果以下の新案を作成し、翌年度の医学科教務委員会に提出予定であり、承認後、下位項目を策定予定である。(資料1)(資料2)(資料3)

<新ディプロマポリシー案(大項目)>

- ① 豊かな人間性
- ② 医学的専門性
- ③ 科学的思考
- ④ 長崎医学に基づく国際性

改善状況を示す根拠資料

- 資料1 医学科学生の手引(現行のディプロマ・ポリシー)

- 資料 2 医学教育分野別評価領域 1 ワーキンググループ第 1 回記録
- 資料 3 医学教育分野別評価領域 1 ワーキンググループ第 2 回記録

1.4 使命と成果策定への参画

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 学修成果の策定は教務委員会が行い、学外からの意見聴取の機会には十分ではないので、広い範囲の教育関係者の意見を反映する仕組みを構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 現行のディプロマ・ポリシーの適切性と修正案について広い範囲の教育関係者の意見を反映するため、教学マネジメントの PDCA サイクルを循環させることを目的として大学内に設置されている大学教育イノベーションセンターに所属する教育の専門家をメンバーとして加え検討を行った。（資料 2）（資料 3）（資料 4）

改善状況を示す根拠資料

- 資料 2 医学教育分野別評価領域 1 ワーキンググループ第 1 回記録
- 資料 3 医学教育分野別評価領域 1 ワーキンググループ第 2 回記録
- 資料 4 領域別ワーキンググループメンバー表

2. 教育プログラム

プログラム管理について教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置し、委員に学生と医学科以外の教育関係者を加えた。さらに、卒後教育の担当者も委員に加え、卒前から卒後へシームレスに続く視点を意識する教育プログラムを検討する体制を整えた。

2.7 プログラム管理

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 管理運営の組織として、卒前・卒後教育の連携を教務委員会と先端医育センターが担っている。

改善のための示唆

- 学生の代表がカリキュラムの立案と実施にあたる委員会の正式な委員として参加し、

学生の建設的な意見を適切に反映させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- カリキュラム委員会を設置し学生を委員とした。(資料5)(資料6)

改善状況を示す根拠資料

- 資料5 長崎大学医学部医学科における各種委員会内規(令和2年9月7日施行)
- 資料6 医学科カリキュラム委員会構成員

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- なし。

改善のための示唆

- カリキュラムの立案と実施にあたる委員会に、教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- カリキュラム委員会を設置し、教育の関係者の代表を構成員とした。(資料5)(資料6)
- 卒後教育の担当者を構成員とした。(資料5)(資料6)

改善状況を示す根拠資料

- 資料5 長崎大学医学部医学科における各種委員会内規(令和2年9月7日施行)
- 資料6 医学科カリキュラム委員会構成員

3 学生の評価

領域3.1 評価方法と、領域3.2 評価と学習との関連について、基本的水準及び質的向上のための水準)における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、外部の専門家を医学教育分野別評価領域3 ワーキンググループの構成員に加え、Mini-CEX、ポートフォリオの活用方法および統合型試験の分野別合格基準の改善について医学科教務委員会に助言を行った。また、オンライン試験のあり方について協議を行った。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- 基礎医学および臨床医学 TBL で多角的な評価方法を導入し、リサーチセミナー（基礎医学研究実習）では学生全員が参加するリサーチセミナー 発表会を開催していることは評価できる。

改善のための示唆

- Mini-CEX、ポートフォリオをさらに活用すべきである。
- 学生の評価について、外部の専門家によって吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- Mini-CEX、ポートフォリオの活用方法について議論し、臨床実習時に各診療科において書面または web にてポートフォリオの確認と評価を行うことが有効と考えられ、2021 年度の医学科教務委員会に提案する予定である。（資料 7）、（資料 8）
- 学生の評価に関する医学教育分野別評価領域 3 ワーキンググループの構成員に大学教育イノベーションセンターに所属する教育の専門家を加えた。（資料 4）

改善状況を示す根拠資料

- 資料 7 医学教育分野別評価領域 3 ワーキンググループ第 2 回記録
- 資料 8 医学教育分野別評価領域 3 ワーキンググループ第 3 回記録
- 資料 4 領域別ワーキンググループメンバー表（2021 年 3 月時点）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 基礎医学および臨床医学試験、臨床実習の評価における信頼性、妥当性を検証することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 医学科教務委員会においてオンライン試験のあり方について協議を行い、オンライン試験は基本的に行わない方針としたが、行う場合は選択肢をランダム化する、解答しないと次に進めず解答済みの問題には戻れない仕様とする、熟考する必要がある問題は筆記とする、スクリーンショットを妨害するシステムを導入する、等の対策を講じて行うこととなった。（資料 9）

改善状況を示す根拠資料

- 資料 9 令和 2 年度第 5 回医学科教務委員会議事要旨

3.2 評価と学習との関連

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 「医と社会」および「医学ゼミナール」で、段階的に倫理観や問題解決能力の進歩を確認していることは評価できる。

改善のための助言

- 形式的評価として、Mini-CEX、ポートフォリオ評価を活用し、学生の学習をさらに促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- Mini-CEX、ポートフォリオの活用方法について議論し、臨床実習時に各診療科において書面またはwebにてポートフォリオの確認と評価を行うことが有効と考えられ、2021年度の医学科教務委員会に提案する予定である。（資料7）、（資料8）

改善状況を示す根拠資料

- 資料7 医学教育分野別評価領域3 ワーキンググループ第2回記録
- 資料8 医学教育分野別評価領域3 ワーキンググループ第3回記録

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 学生への過度な負担を避けるため、試験の回数、時期、内容を再検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 統合型試験の分野別合格基準について議論し、授業内の担当コマ数に応じて試験時間の上限を定める、設問の種類に応じて回答所要時間を定める、設問数が極端に少ない分野は設問数を増やすことが有効と考えられ、2021年度の医学科教務委員会に提案する予定である。（資料7）、（資料8）

改善状況を示す根拠資料

- 資料7 医学教育分野別評価領域3 ワーキンググループ第2回記録
- 資料8 医学教育分野別評価領域3 ワーキンググループ第3回記録

4. 学生

領域 4.4 学生の参加に関して、基本的水準における「改善のための助言」を受け、領域 2 における改訂対応により 2020 年にカリキュラム作成のためのカリキュラム委員会が設置され学生が参加した。

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- カリキュラム評価委員会に学生の代表が正式委員として参加している。

改善のための助言

- 教育プログラムの策定、管理を担当する委員会へ学生を参加させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教育プログラムの策定にかかわるカリキュラム委員会を設置し学生が正式委員として参加している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 6 医学科カリキュラム委員会構成員名簿

5. 教員

領域 5.1 及び領域 5.2 の基本的水準（及び、質的向上のための水準）における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教員全員を対象としたアンケートを実施し、定期的なモニタリングを開始した。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 日本版注釈「教員の男女間のバランスの配慮」に関して、女性教員の比率向上に向けた教員選考に関する要項を継続的に運用し、女性教員を採用した教室に対し、インセンティブとして採用年度にスタートアップ経費を配分している。女性教員の占める割合は2017年度は11.3%だったが、2019年度は12.6%、2020年度は14.1%に上昇している（資料10）（資料11）。

改善状況を示す根拠資料

- 資料10 長崎大学における女性教員の比率向上及び上位職登用にに向けた教員選考に関する要項
- 資料11 2017年度～2020年度 生命医科学域（医学系）教員男女比推移

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 教育、研究、臨床（診療）の活動についての教員の業績を評価基礎データベースで把握し、教員の評価に活用していることは評価できる。
- 医学部研究高度化支援室（MEDURA）を設置し、研究者支援を行っている。

改善のための助言

- 教育、研究、臨床（診療）のバランスについて定期的にモニタし、適正なバランスに保つべきである。
- 評価基礎データベースを用いて、各教員が臨床と研究の活動を教育活動にどの程度活用しているかをモニタすべきである。
- カリキュラム全体を教員が把握しているかどうかをモニタすべきである。
- 教員研修に関するFDを医学部として組織的に開催し、受講を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教員のエフォートをモニタリングするために、2019年度は教育実務担当者を対象に施行したアンケートを、2020年度は教員全体に実施した。（資料12）（資料13）

- 1) 教員が学術的評価の認識をしているか、アンケートを通じて現状を把握した。
- 2) 教員に対する FD はオンデマンドの e-learning 型を希望している割合が多く、コロナウイルス感染の観点からもオンデマンドの e-learning 型を増やすこととした。2021 年度の教務委員会で審議し、実行する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 12 2020 年度医学系教員対象アンケートフォーム
- 資料 13 2020 年度医学系教員対象アンケート FD 実施方法に関する回答結果

6. 教育資源

領域 6.3 (情報通信技術) における評価報告書「改善のための助言・示唆」を受け、(B6.3 情報通信技術) 講義室における Wi-Fi 環境の改善を行った。

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点 (特色)

- 教育プログラムに主体的学習促進支援システム (LACS) やポートフォリオシステムを活用していることは評価できる。
-

改善のための助言

- 講義室における Wi-Fi 環境を改善すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 講義室等における Wi-Fi 接続環境の改善
2018 年度と比較して医学科の講義室等への Wi-Fi アクセスポイントの設置台数を増やした。(資料 14) 2020 年度の学生アンケートでは、“Wi-Fi 環境が改善した”と回答した学生が約半数だった。(資料 15)

改善状況を示す根拠資料

- 資料 14 医学部教育施設内 Wi-Fi 接続環境向上のための取組み (2020 年度)
- 資料 15 2020 年度 6 年次対象教育資源に関する調査アンケート集計結果 (Wi-Fi 接続環境の変化に関する設問抜粋)

7. 教育プログラム評価

領域7.2を受け、教育プログラムに対する教員の意見を集めるため教員アンケートを実施した。

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育プログラムに対する教員と学生からの意見を系統的に集め、分析し対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020年度は全教員を対象とした教育プログラムに関するアンケート調査を実施し、学生に対しては、卒業生を対象としたアンケートを継続している。（資料16）（資料17）（資料18）（資料19）

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 16 2020 年度教育プログラムに関するアンケート調査（教員）
- ・ 資料 17 2020 年度教育プログラムに関するアンケート調査結果（教員）
- ・ 資料 18 2020 年度教育プログラムに関するアンケート調査結果(自由記載__教員)
(部外秘)
- ・ 資料 19 2020 年度 6 年次生対象 学生生活と学習成果に関する調査(一部部外秘)

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業生に教育資源に対するアンケートを行っている。

改善のための助言

- ・ 医学部医学科のディプロマ・ポリシーを評価の観点に、学生の実績を分析すべきである。

- ・ 学生のみならず、卒業生の実績についても解析し、教育プログラムの改善に反映させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ (地域枠・研究医枠) で入学した学生の卒業進路について、追跡調査を行っている。
- ・ 全国的に COVID-19 に対応している卒業生を輩出していることを確認した。
- ・ 今後、卒業生の実績については、名簿や各教室の情報を元に専門分野で活躍している卒業生について調査することが第 1 回カリキュラム評価委員会で確認された。(資料 20)

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 20 令和 2 年度第 1 回医学科カリキュラム評価委員会議事録
- ・ 資料 21 令和 2 年度第 2 回医学科カリキュラム評価委員会議事録
- ・ 資料 22 医学教育分野別評価領域 7 ワーキンググループ第 1 回記録

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点 (特色)

- ・ カリキュラム評価委員会に学生が参加している。

改善のための助言

- ・ カリキュラム評価委員会に教員、学生だけでなく、職員など主な教育の関係者を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ カリキュラム評価委員会に教員、学生だけでなく、職員など主な教育の関係者として、歯学部教育改善実施委員会委員長および医学教育分野別評価ワーキンググループ会議(領域 7) の構成員を含めた。(資料 20) (資料 22) (資料 23)

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 20 令和 2 年度第 1 回医学科カリキュラム評価委員会議事録
- ・ 資料 22 医学教育分野別評価領域 7 ワーキンググループ第 1 回記録
- ・ 資料 23 医学科カリキュラム評価委員構成員名簿

8. 統括及び管理運営

領域 8.5 質的向上のための水準における「改善のための示唆」を受け、これまでの種々の実習を通じた学生の地域社会等との交流を、今後も継続していく。

8.5 保健医療部門との交流

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域社会や行政の保健医療部門や保健医療関連部門との交流に学生を参加させる環境を整えることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ これまでも学生を種々の実習を通して地域社会等との交流に参加させており、今後も継続していく。（資料 24）（資料 25）（資料 26）（資料 27）

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 24 地域包括ケア実習スケジュール
- ・ 資料 25 地域医療・地域包括ケア・保健実習
- ・ 資料 26 2020 年 1 月～12 月離島実習スケジュール・班編成
- ・ 資料 27 2019 年 1 月～12 月離島実習スケジュール

9. 継続的改良

領域別のワーキンググループ(WG)を組織し、継続的改良のために活動を実施した。

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部 IR 室を設置し、教学にかかるデータを収集し、解析を始めている。

改善のための示唆

- ・ 教育プログラムの過程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学習環境を定期的に自己点検するカリキュラム評価委員会が実質的に活動を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 令和 2 年 5 月 20 日開催の医学科会議において、2 巡目の医学教育分野別評価に向けた対応を審議した結果、領域別のワーキンググループ(WG)を組織し領域責任者を置き、

同 WG には医学部医学科全教室及び医学科教育を担当する長崎大学病院、原爆後障害医療研究所の各教室から選出された教員が参加することとした。(資料 4)

- WG では、1 巡目受審時の自己点検評価報告書、評価報告書の内容を参考にしながら協議を行い、必要に応じて提案を行うなど改善に向けた取り組みを行っている。また、WG での協議内容、取り組みを教務運営に活かしていけるよう、定期的に医学科教務委員長と領域責任者との面談を実施している。(資料 28)

改善状況を示す根拠資料

- 資料 4 領域別ワーキンググループメンバー表 (2020 年 6 月時点)
- 資料 28 医学教育分野別評価領域責任者定期面談第 1 回記録